

第 20 回 DF 関西勉強会 ケニアでの JICA ボランティアの経験

2019 年 10 月 29 日 奥野 裕志 (Mwendwa Mutiso Okuno)

ポレポレ(Pole Pole)

スワヒリ語で、“のんびり”、“ゆっくり” (スワヒリ語 : ケニア、タンザニアの公用語)

1. ケニアのご紹介

国土面積 : 58 万平方キロ(日本の約 1.5 倍)
人口 : 4970 万人(日本の 40%)
小学校 1 年生 110 万人(日本と同じ)

公用語 : 英語、スワヒリ語、他に 42 部族、42 言語(47 州)
キクユ 政権与党、カレンジン マラソン、
ルオ 最大野党 オバマさんの父親、
カンバ 農耕民族、マサイ (元)狩猟民族、
ソマリ イスラム教徒...



在留邦人 : 800 名 (中国 1 万人)

マラソン: ナイロビマラソン、ソトコトマラソン、マサイマラマラソン

2. JICA ボランティア

JICA(国際協力機構)青年海外協力隊とシニアボランティア
ケニアには初代の協力隊員 3 名が到着してから 50 年、これまでに 1600 名以上が派遣
記録ではなく記憶に残る草の根外交官

ボランティア終了後も、ケニアで活動が続けている方々もいる(ロート製薬、日清食品の例)

3. 活動

任地 : 首都ナイロビより 2 時間の地方都市マチャコスタウン
ケニアの経済について、M-PESA(ケニア版電子マネー)

生活 : 標高 1,500 メートル、最高気温 28℃、最低気温 10℃
2LDK アパート、風呂なし、七輪、魚なし、蚊帳(日本製)
停電: 多い時は 4 日/週、12 時間/日
断水、水漏れ 日常茶飯事



食事 : 主食 ウガリ(原料: トウモロコシ)、
スクマ(ケール:青汁を油で煮たもの)
豊富な野菜、肉(牛、鶏、ヤギ)
メニューの変化なし



要請 : コンピュータ技術 ケニア・国立マチャコス大学
2013 年 1 月～(2 年間)

背景 人口、進学率の増加、地方への高等教育の浸透

シリコンサバンナ(IT 都市)構想

講義の現状

ベテラン教師による学生とのフェイスツーフェイスの授業、時間外も含め親密な対応
白板と口頭が主体、整備された実習室
学生は教科書を持っていない(高価)
講義に積極的に参加しノートに記入
出席できなかったらノートの貸し借りや自習

ホワイトボードのみ ->

プロジェクターでの授業、講義資料作成

ICT 学部での理論および実習の講義

- ・ プログラミング、およびマイクロソフト・アプリケーション
- ・ ICT 学部の教師に対する技術サポート



講義に加えた活動

- ・ コンピュータを活用した授業の取り組み(イーラーニング)
- ・ 教師との勉強会
- ・ 大学のホームページの見直し

活動の壁： ことば -> 言葉は伝達手段
異文化 生産性重視 vs 人間関係重視、 文書化 vs 口頭での伝達

4. ケニアの社会

スーパーマーケットでの経験

- ・ スーパーマーケットのモットー： 商品を通じて、人々と良い関係を築くこと
- ・ 100 グラム 150 円 / 200 グラム 350 円： 数学が得意ではない、または、貧しい人には安く提供する

冠婚葬祭について

- ・ めでたいことも、悲しいこと多くの人と分かち合う
- ・ 個々の事情での遅刻、間違いにとにかく言わず、みんなで受け入れる



5. その他

青年海外協力隊員の活動より

- ・ 任期終了後、個人で起業した例 (マンゴーの農家での加工、サイザル麻のブランド化)
- ・ 視覚障害者のための、"シャバニーズ・シアツ"店の開業サポート
- ・ ケニア隊有志による奨学金制度-30 年引き継がれています

ケニアの治安状況

- ・ 人種/民族/宗教の共存の努力、国際紛争の影響
- ・ ショッピングモールでの悲しい出来事



日本と新興国の比較

- ・ 経済的に恵まれた中流層 <-> 助け合いの社会通念
- ・ インフラが整っている <-> しがらみのない最新技術の利用
- ・ 共通言語、陸続きではない <-> 異文化、多言語、コミュニケーション能力
- ・ 教育レベルが高い <-> 教育に対するどん欲さ

KESTES

Kenya Students' Education Scholarship
ケニア学生教育奨学金と学生奨学金の両方を提供しています





日本の今後に向けての財産は、何でしょうか？

ポレポレ
ポレ

Pole Pole
Pole

"のんびり","ゆっくり"
"ごめんなさい","おかわいそう"

ありがとうございました